

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会
令和4年度 第1回 荒川流域エリア・ワーキング

議 事 要 旨

■ 日 時：令和4年7月7日（金） 09：30～11：30

■ 場 所：荒川上流河川事務所 3階 事業説明ホール（WEB会議形式併用）

■ 議事要旨

1. これまでの経緯の確認

- ・ 書面開催による第4回推進協議会にて規約改定を行ったことを報告した。
- ・ アクションプラン策定までの経緯と概要、昨年度実施の前回協議会及びWGの議事要旨について確認を行った。

2. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の推進（R4予定等）について

- ・ 令和4年度 協議会活動計画（案）について確認を行った。
- ・ 取り組みの進め方等について意見交換を行った。

■ 配布資料

- ・ 議事次第／出席者名簿・配席図／WG規約・委員名簿
- ・ 資料1 これまでの経緯
- ・ 資料2 アクションプランの取り組み推進について（令和4年度活動計画案）

■出席者

構成	団 体 名 等	氏 名
学 識 経 験 者	◎埼玉大学 名誉教授	浅枝 隆
	(公財)埼玉県公園緑地協会 埼玉県こども動物自然公園 副園長	高木 嘉彦
	那須どうぶつ王国 教育・普及啓発プロデューサー	日橋 一昭
団 市 体 民	特定非営利活動法人 鴻巣こうのとりを育む会 代表理事	伊藤 鑄義
	特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク 理事	川島 秀男
関 係 自 治 体	鴻巣市 環境経済部 環境課 副参事	小林 弘樹
	北本市 市民経済部 環境課 主任	小池 輝雄
	吉見町 環境課 係長	笛木 学
関 係 行 政 機 関	埼玉県 環境部 みどり自然課 主幹	河津 理子
	埼玉県 農林部 農村整備課 主事	川鍋 将司
	埼玉県 県土整備部 河川環境課 主任	北田 寛
	埼玉県 環境部 環境科学国際センター 主任	岡本 慎吾
	荒川上流河川事務所 副所長	高橋 靖
事 務 局	荒川上流河川事務所 河川環境課 課長	野口 典孝
	荒川上流河川事務所 河川環境課 河川環境係長	新保 美奈子
※	関東地方整備局 河川部 河川環境課 地域連携係長	橋本 真孝

◎座長 / ※オブザーバー

学識経験者・民間団体 氏名五十音順

1. これまでの経緯の確認

○ 事務局

【資料1】 これまでの経緯

→意見なし。

2 「荒川流域エリア・アクションプラン」の推進（R4 予定等）について

（1）生物の生息場環境保全に関する重点取り組みプランについて

○ 事務局

【資料2】 アクションプランの取り組み推進について（令和4年度活動計画案）のうち、「生物の生息環境保全に関するプランの本年度計画」について説明。

・プラン①「合同生きもの調査の実施」に関する本年度活動計画について

○ 高木委員

生きもの調査体験会は夏だけではなく季節毎に開催し、リピーターの方が季節による生きものの違いを見ることができるといった計画ができると面白いかと思う。

○ 事務局

コウノトリの餌生物の減少する時期といった観点で秋冬に調査するのもよいと思うが、田んぼに水がないと水田調査体験は難しい面もある。調査に協力いただける冬水田んぼがエコネットのエリアにないか、また荒川の河川敷できないかなど、今後、ご指摘の点も踏まえて合同生きもの調査体験会の実施内容を検討していきたい。

○ 浅枝座長

可能であれば春夏秋冬に実施できると良いが、埼玉県の場合、冬は田んぼや小さな水路に水がなくなる。その場合1年をとおして生き物の生息にどのような変化があるのかを体験いただくのもひとつの方法になるのではないか。冬に関しては、まだ時間があるので、これから考えていけばよいと思う。

○ 鴻巣市

7月26日に天空の里で実施される生きもの調査体験会だが、当日のプログラム内容が現案では時間に余裕がないように感じている。適切な時間配分になるよう、今後、事務局と調整していきたい。

・プラン②「ゴミ・外来種問題への対応」に関する本年度活動計画について

○ 事務局

ゴミ・外来種問題への対策状況について、令和3年度の例では、荒川、市野川、越

辺川、元荒川において、河川清掃活動が各市町の町内清掃が主に春と秋の2時期に実施された。また、外来種対策については吉見町内でスクミリンゴガイ駆除に参加した。吉見町のほか桶川市でもオオキンケイギクについて特定外来種であることを啓発しており、地域の方からの問い合わせもある状況と聞いている。

令和4年度、すでに実施済みの活動としては、吉見町で地域の企業と連携して実施された美化活動において、オオキンケイギクの外来種啓発用チラシや指標種缶バッチをエコネットのアクションプラン啓発のため配布させていただいた。

○ 浅枝座長

ゴミ問題に興味を持っていただこうとすると、例えば、最近ではマスクが捨てられているといった世の中の流れや、季節によってどういったタイプのゴミが増えているか、といったゴミの種類や時期というのも重要な視点になると思う。

また、単にゴミを集めるだけでなく、ゴミを分類し、その内容を発表していただくといった機会があると、若い方も興味を持たれるのではないかなと思う。

令和4年度ではなく来年度でもよいが、ひとつのインセンティブとして、活動結果を発表する場を設けるとよい。

○ 事務局

近年は様々な団体や個人が SNS などを通して活動内容を発信されている状況である。今後はアクションプランに関連する活動をされているような方の情報などもとりまとめながら、皆様の活動のご報告やご紹介の場を設けることも検討していきたい。

○ 高木委員

外来種について、印旛沼や手賀沼ではナガエツルノゲイトウの繁茂が問題になっているが、荒川流域にも侵入する恐れがある。侵入した場合には早期に駆除する必要があると思うが、この取り組みの一環として、見つけたら通報をお願いするような啓発用パンフレットを作成するとよいのではないかな。

また、外来種の侵入が発見された場合の対策方法が確立されていないと、水辺環境が悪化してしまう懸念がある。

○ 浅枝座長

外来種の侵入を見逃しているという可能性はある。流域の学校などには興味を持っていただける話だと思ふため、簡単なパンフレットがあるとよいかもしれない。

長期にわたり荒川のことを調べていると、変化が大きいことが分かる。例えばニセアカシアなどは上流部から広がりを見せている。それがどのくらいの速さで広がっているのかなどを調べてみるのは、高校生くらいの学生にとって面白い研究課題にもなる。また、外来種も生息範囲を長期にわたって調べると面白いかもしれないよ、と興味を持ってもらえるようにアドバイスしていくこともよいと思う。

○ 環境科学国際センター

埼玉県内の確認情報を収集するかたちで、特定外来生物クビアカツヤカミキリやアライグマなどの分布、また、場所は公開できないが希少種の分布も調べている。生物多様性センターを開設して動き出したばかりであるが、県民の方に参加いただいて、生物の分布状況のデータを収集していく検討をしている。提供可能なデータもあり、環境教育や各種研究に活用していただけるとよい。

・ プラン③「環境学習・観察会の推進支援」に関する本年度活動計画について

○ 事務局

7月26日の生きもの調査体験会では、エコロジカルネットワークについてなど、環境学習の視点も含めて実施したいと考えている。

○ 荒川流域ネットワーク

先日、吹上小学校の4年生児童らと元荒川の水辺へ行き、水質調査や生きもの調査を実施したところである。そこで天空の里のコウノトリを見たことあるかを質問したところ、大半の学生が挙手をし、非常に関心を持っていることが分かった。

○ 浅枝座長

例えば、20年以上前の元荒川の上流側ではミクリが増えていたが、下流側にも広がったことで刈り取られた。その影響でムサシトミヨが減ったため、対策について相談されたことがある。このように、十分な調査を行わず実施したことで、環境に大きな影響を及ぼすことがある、といったことも多くの方に知っていただき、興味をもっていただくことも重要と思う。

○ 日橋委員

現在、民間の動物園に従事しているが、団体参加される小中学校からSDGsについての講話を依頼されることが多い。SDGsについては学校の授業に取り入れられていることから、非常に期待値の高いコンテンツとなっている。そのため、推進協議会でもそういった方向性を取り入れることが必要と感じている。

小学校の高学年では自分たちがSDGsに取り組まなければいけないと理解していると思うが、体が動くかは別である。彼らが動けるようになるためには、我々がどう導いてあげるか考える必要がある。

また、自然再生に取り組む人たちや行政などの関係者が協力して取り組んでいることや思いを伝えていくことも大切である。このため、映像を作成し、YouTubeや学校の授業で流せるようにするのもよい。ただし、それはスピード感が大事である。とにかく80%のものでもいいから、とにかく行動することが大事である。映像でなくてもいいが、取り組みがみんなに理解してもらえるコンテンツがあるとよい。

○ 浅枝座長

若い人を引き込むために重要なのは、若い人からの興味関心が高く、世界的な話題にもなっているプラスチックとSDGsについてわかりやすく盛り込んでいくことであり、今後、資料を作成する際には留意してもらいたい。

また、今の若い人は興味を引く YouTube 動画はテンポよく作成されている。コウノトリに興味を持ってもらえる、若い人をうまく取り込めるとよい。

○ 荒川流域ネットワーク

荒川流域のコウノトリが、自然の中で生活できる環境をこれから整えるための参考資料として、渡良瀬遊水地に生息するコウノトリが野外で生活している様子を YouTube 動画用に撮影するのも良い。

○ 鴻巣こうのとりを育む会

環境教育について、コロナ禍前は小学生や幼稚園生などを対象に色々実施していたが、現在はできなくなっている。ただ、現在も小学校の先生から何かやってくれないかという問い合わせはある。そのため、コウノトリがいる天空の里をうまく利用して、小学生など市民のみなさんと一緒に勉強できる場を設けられるといいと考えている。

また、環境学習を希望する企業との会合なども年に 1 回ほどある。先日の会合でも具体的なプランはないが、環境学習の機会を設けたいということについて賛同だけだった。

○ 浅枝座長

環境学習は、実は企業にとっても非常にプラスになる。例えば、精神的なストレスを抱える社員に自然の中で活動していただくことは、心のケアにも役立つそうである。そういった視点でも連携がとれれば、さまざまな面で Win-Win となる活動ができると思う。

(2) 地域振興・経済活性化に関する重点取り組みプランについて

○ 事務局

【資料 2】 アクションプランの取り組み推進について（令和 4 年度活動計画案）のうち、「地域振興・経済活性化に関するプランの本年度計画」について説明。

・プラン④「各種広報の展開」に関する本年度活動計画について

○ 日橋委員

アンケートで、「生きたコウノトリをみたことがあるか」を聞いてほしい。現状、動物園で子どもからの人気の動物は鳥類以外という傾向があり、コウノトリを見たことがある人は少ないと思う。今後、天空の里ができたことでコウノトリを見たことのある人が増えてくると考えられるため、そういった数字が出れば理解者が増えたと判断できるのではないかな。

○ 荒川流域ネットワーク

10年前は鴻巣市内の小学校の環境学習でコウノトリを見たことがあるかと質問したら1人か2人であった。今は全体の50%くらいの人が見たことがあるといった状況である。

○ 高木委員

アンケートについて、紙ベースとWEBベースとあるが、WEBベースでやっても現状は認知度が低いため回答率は上がらないと思う。教育委員会に依頼するなど、配布先なども含めてプランを考えないと、有効性のあるものにはならないのではないかと。

○ 事務局

自治体の方にもご協力いただくような形にはなるかと思うが、効率的にアンケート調査ができる方法について検討していきたい。

○ 吉見町

広報について、ターゲットは小学生と明確に絞り、例えば5分～10分くらいの動画や、小学生が分かりやすいチラシを作成するのがよいと思う。

例えば吉見町、川島町、鴻巣市、北本市、桶川市の小学生がエコネットのことを聞いたことがある、エコネットの缶バッジを小学生全員が持っている、など、5市町だけでも良いから活動を知ってもらうために明確な広報をした方がいい。その子どもたちが大人になったときに、昔、鴻巣市の天空の里に行ったことがあるよね、などの会話ができるようになったらよいと思う。

また、鴻巣市への質問になるが、天空の里は市外の小学校の施設見学の受け入れは可能であるか。

○ 鴻巣市

天空の里の施設見学について、まだ市外への案内はしていないが、市外の学校からの問い合わせの調整も行っている。特に鴻巣市内の小学校、中学校に限定しているわけではなく、市外からの施設見学も歓迎する。

○ 事務局

エコネットの缶バッジについては、イベントや調査体験会に参加していただいた方を対象に配布することを想定している。5市町の小学生全員にというのは予算の面もあり難しいと思うが、広報のターゲットを絞ることは重要であるため、ターゲットに届けるための広報について検討を進めたい。

○ 浅枝座長

鴻巣市外の方に天空の里を見に来ていただくこと、それ自体が知名度や印象をアップすることに繋がるため、うまく活用していただくと良い。

○ 日橋委員

鴻巣こうのとりを育む会で、子どもたちのためにクラウドファンディングで支援を集めてもいいのではないかと。または、地域の企業に協賛していただき、近隣の子どもたちが全員帽子やバッグに缶バッジを付けているようになるのも良いと思う。

○ 鴻巣こうのとりを育む会

缶バッジを作る企画は以前からあったが、予算がかかることや、どれだけ効果があるか分からないため中止した。しかし、やはり活用していくことは必要であると思っている。

・ プラン⑤「エコツアーの推進支援」に関する本年度活動計画について

○ 浅枝座長

Google マップはとても利用価値があり、うまく広めていくと地元の商店街にとってもプラスになる。日本では Google マップを使う層が増えていないが、海外では年配の方も活用している。将来的には日本もそうなると考えられるため、今のうちから準備しておくことで地域活性化に繋がると期待できる。

(3) 今年度の取り組みの進め方等に関する意見交換

○ 事務局

【資料2】 アクションプランの取り組み推進について（令和4年度活動計画案）のうち、「年間スケジュール」について説明。

○ 浅枝座長

今日の指摘にもあったように、アクションプランの取り組みが今の社会の動きになかなかついていけない部分がある。そのため、資料に記載している内容以外にも、動けそうなことがあれば、スピード感を持ってどんどん実行していただくことで、社会の動きについて行けるようになるのではないかとと思う。

3. その他（連絡事項等）

○ 事務局

プラン①で話題にしている7月26日の生きもの調査体験会について、荒川上流河川事務所のホームページに掲載するとともに、各縣市町へホームページ掲載と関連施設でのチラシ設置をお願いしているところである。今後も地域の皆さまの目の付くようなかたちで広報していきたいのでご協力いただけるようお願いしたい。

以 上